

他にこの地域には訪問看護ステーションはない。
地域の医師が参加してくれる方々ばかりではない。
地域的に必要性がないと考えます。又、医療体制が整っていない。輪番制で回れる医師
がいないと思います。
訪問看護ステーション数、病院数が少ないため、マンパワーが足りない。
訪問看護は当施設だけで実施している。
訪問看護師として働きたいという人員が少ない。
夜間休日対応、緊急対応を行う医師がいない為。
夜間対応の医師不足。

患者宅へのアクセスの問題

普段の状態がわからないまま訪問しても、異常時の状態は把握しきれないと思う。複
雑な場所に家がある場合、夜間は特に到着できない可能性がある。
ふだんの状態を知らないと対応できないことが多い。地図だけでは行きにくい所があ
る。加えて夜間、初めての家に行くのは難しいと思う。場所によっては街灯もない。家
に入るまで相当距離歩く所もあり。

患者・家族側の意識

それぞれのステーションが忙しく、利用者さんの情報を共有することが難しい。コス
トはどうするのか。利用者が不安をもつ。訪問する看護師も精神的ストレスが大きい。
協力できる医師が少ない。担当外の医師、看護師では不安解消できない。
常に患者の状態を把握している訳ではない為、お互い不安がらると思う。
どのような体制で在宅しているかが、一人一人みなちがうため、その場だけの判断は
難しく、よほど本人、家族を指導していかないと無理があると考える。
個々のステーションが対応すべき問題だから精神的に介入が必要な場合が多いので、
初対面の看護師では難しいと思う。
在宅療養は信頼関係の上に成り立つものと考えてるので普段から担当している看護師以
外が対応することについて納得も得られないと思います。
信頼関係が大切で、誰でもよいわけではない。
日常の状態把握している医師や看護師に信頼を寄せる国民性が高い。

患者情報の共有

各事業所の収益配分の問題。日常とのちがいがわからない（気づきを見落とす危険）。
個人情報保護の問題。把握できる範囲に限界（病状、家など）。
普段の様子を知らない看護師では、アセスメント（緊急の対応）しにくい。医師の看と
りなどはできると思う。（看護ステーションはむずかしいのでは） コメントするなら
情報共有できるシステムづくりが大切。お金とか団体の問題ではないです。現場の看
護師の環境整備、これが大切！！だと思います。
普段の状態がわからないまま訪問しても、異常時の状態は把握しきれないと思う。複
雑な場所に家がある場合、夜間は特に到着できない可能性がある。
それぞれのステーションが忙しく、利用者さんの情報を共有することが難しい。コス

トはどうするのか。利用者が不安をもつ。訪問する看護師も精神的ストレスが大きい。
患者の状態など普段の情報を把握できない。

自事業所内での24時間対応（特に訪問、早期など）は大変なのに地域単位となると、把握も困難。自信がない。バックアップも確立されていないと困難。

他のステーションの利用者については、普段の情報がない状態。そのような相手の緊急時の判断は難しいし、満足してもらえるか自信がない。ケア中に事故があった時、保障や責任の所在をどうするかなど考える。やりたくない。

地域単位での利用者さんの把握には限界があり責任が持てない。（臨時対応という場合なので尚更、判断は重要）クラウド等での情報把握は可能かもしれないが、それだけでは個別を理解するのはむずかしい。

地域単位では利用者数が多く把握しきれず、全く訪問していない家には訪問しにくいと思われます。

地域単位となると患者把握が難しく、連絡体制も十分ではない。時間もかかると思う。普段関わっていない市民の情報を共有する事ができないので、機関や法人を越えた体制づくりはできないと思います。

毎日変化のある患者情報の共有が困難であり、パソコンでの共有が可能であったとしても、夜間の対応などには、瞬時に情報確認することが困難と考えます。

利用者状態把握ができない。

報酬体系の課題

それぞれのステーションが忙しく、利用者さんの情報を共有することが難しい。コストはどうするのか。利用者が不安をもつ。訪問する看護師も精神的ストレスが大きい。各事業所の収益配分の問題。日常とのちがいがわからない（気づきを見落とす危険）。個人情報保護の問題。把握できる範囲に限界（病状、家など）。

地域の医療体制の課題

1. 2つの市にまたがった地域である。2. 医師同士の仲が悪い。3. 各機関差が大きい。この地域で往診をしてくれる医師がいない。

医師会がまとまっていない。

医師不足。地域・医師どうしの連携はない状態。

開業医の理解と協力体制が全くない。

各医療機関が1か所でも多く幅広く在宅医療を受け入れる体制が整っている必要がある。

近隣の訪問看護ステーション全体で親しい関係ができていない。

個人や企業・法人で運営しているステーションなので支払える給与に格差を生じる。また、地区によって利用者があるわけではなく市内あちこちにいるので地区での取りまとめが困難。

山間部のため、地域の範囲が広く、対応するには物理的に困難。

地理的な問題（範囲が広くて把握困難ですぐかけつけられないのではないかな）。普段からの状況把握がないと細かな処置などに対応できないのではないかな。

3-7. 仕事や臨時対応体制についての考え

「現在の仕事について満足している」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 61.1%を占めていた。

表 274 「現在の仕事について満足している」への回答 (n=548)

	度数	割合
全くあてはまらない	9	1.6%
あまりあてはまらない	47	8.6%
どちらでもない	157	28.6%
そのとおりである	269	49.1%
全くそのとおりである	66	12.0%

「現在の仕事をこのまま続けたいと思う」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 67.0%を占めていた。

表 275 「現在の仕事をこのまま続けたいと思う」への回答 (n=549)

	度数	割合
全くあてはまらない	10	1.8%
あまりあてはまらない	55	10.0%
どちらでもない	117	21.4%
そのとおりである	270	49.3%
全くそのとおりである	97	17.7%

「現在の夜間休日の臨時対応体制を続けたいと思う」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 49.6%を占めていた。

表 276 「現在の夜間休日の臨時対応体制を続けたいと思う」への回答 (n=545)

	度数	割合
全くあてはまらない	42	7.7%
あまりあてはまらない	87	15.9%
どちらでもない	144	26.3%
そのとおりである	211	38.5%
全くそのとおりである	61	11.1%

「現在の夜間休日の臨時対応体制を継続することは可能だと思う」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 56.4%を占めていた。

表 277 「現在の夜間休日の臨時対応体制を継続することは可能だと思う」への回答 (n=545)

	度数	割合
全くあてはまらない	22	4.0%
あまりあてはまらない	72	13.1%
どちらでもない	142	25.9%
そのとおりである	241	44.0%
全くそのとおりである	68	12.4%

「夜間休日の臨時対応により翌日以降の業務に悪影響を与える」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 59.4%を占めていた。

表 278 「夜間休日の臨時対応により翌日以降の業務に悪影響を与える」への回答

	度数	割合
全くあてはまらない	15	2.7%
あまりあてはまらない	76	13.9%
どちらでもない	185	33.8%
そのとおりである	203	37.0%
全くそのとおりである	68	12.4%

「私の仕事は身体的に負担が大きい」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 56.4%を占めていた。

表 279 「私の仕事は身体的に負担が大きい」への回答 (n=549)

	度数	割合
全くあてはまらない	9	1.6%
あまりあてはまらない	68	12.4%
どちらでもない	163	29.7%
そのとおりである	229	41.8%
全くそのとおりである	80	14.6%

「私の仕事は精神的に負担が大きい」という質問への回答では、「全くそのとおりである」または「そのとおりである」という回答が 68.7%を占めていた。

表 280 「私の仕事は精神的に負担が大きい」への回答 (n=549)

	度数	割合
全くあてはまらない	10	1.8%
あまりあてはまらない	57	10.4%
どちらでもない	106	19.3%
そのとおりである	254	46.4%
全くそのとおりである	122	22.3%

3-8. 職業性ストレス：JCQ への回答

職業性ストレスに関する調査票 JCQ への回答を表 231 に示した。

表 281 JCQ の回答 (n=551)

	度数	全く違う	違う	そうである	全くそうである
		割合	割合	割合	割合
新しいことを覚えることが必要な仕事だ	548	0.4%	3.5%	49.3%	46.9%
くり返しの作業がたくさんある仕事だ	549	1.1%	14.9%	58.7%	25.3%
創造性が必要な仕事だ	551	0.0%	3.3%	55.9%	40.8%
自分自身でどのように仕事をするか決めることができる	550	0.5%	12.2%	62.0%	25.3%
たくさんの技術や知識が必要な仕事だ	548	0.0%	2.0%	31.9%	66.1%
どのように仕事をすすめるか決める自由は、私にはほとんどない	550	22.0%	68.9%	8.4%	0.7%
仕事の中で、何種類も別々のことをする機会がある	540	0.4%	12.2%	66.7%	20.7%
自分の仕事の予定を決めることができる	548	2.0%	23.9%	63.5%	10.6%
自分自身の特別な才能をのばす機会がある	544	0.9%	22.2%	64.2%	12.7%
とても速く働くことが必要な仕事だ	550	2.0%	53.1%	35.6%	9.3%
とても一生懸命に働くことが必要な仕事だ	552	0.0%	8.0%	59.6%	32.4%
あまりに多すぎる仕事を頼まれることはない	549	12.4%	55.4%	31.5%	0.7%
仕事をやり終えるのに十分な時間が与えられている	548	8.9%	52.9%	36.1%	2.0%
他の人達からお互いにくい違う指示を出されて困ることはない	548	3.5%	46.4%	48.2%	2.0%

JCQ の仕事のコントロール感 (Decision Latitude) の得点分布をみると、平均 73.2 点、標準偏差 7.3 点であった。

表 282 JCQ の仕事のコントロール感 (Decision Latitude) の得点分布 (n=516)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
516	73.2	7.3	42	72	94

JCQ の仕事の要求度 (Psychological Demands) の得点分布をみると、平均 33.3 点、標準偏差 4.7 点であった。

表 283 JCQ の仕事の要求度 (Psychological Demands) の得点分布 (n=542)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
542	33.3	4.7	21	33	48

3-9. ワーク・ファミリー・コンフリクト：WFCS への回答

表 284 WFCS の回答 (n=549)

	度数	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	そのとおりである	全くそのとおりである
		割合	割合	割合	割合	割合
自分が家族と過ごしたい時間を、思っている以上に仕事にとられる	549	2.4%	14.6%	28.2%	41.7%	13.1%
仕事に時間が取られるため、仕事と同様に家庭での責任や家事をする時間が取りにくい	549	2.4%	17.1%	27.9%	41.2%	11.5%
職務を果たすのに多くの時間を使うため、家族との活動ができないことがある	549	2.6%	20.4%	23.9%	40.4%	12.8%
家族としての責任に時間を費やすために、自分の職務が妨げられることがよくある	547	12.1%	44.2%	31.3%	10.1%	2.4%
家族と時間を過ごすために、自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある	547	8.0%	40.4%	32.7%	16.5%	2.4%
家族としての責任を果たすために多くの時間を使うので、仕事の活動が犠牲になっている	548	18.1%	48.2%	27.4%	5.5%	0.9%
仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある	547	4.9%	22.3%	30.5%	32.0%	10.2%
仕事から帰った時、精神的に疲れ切っていて、家族のために何もすることが出来ないことがよくある	546	6.2%	29.7%	32.1%	25.6%	6.4%

	度数	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	そのとおりである	全くそのとおりである
		割合	割合	割合	割合	割合
職場でのストレスのために、家に帰っても自分が好きなことさえ出来ないことがある	546	8.6%	31.3%	29.5%	23.3%	7.3%
家庭でのストレスのために、職場でも家族のことが頭を離れないことがよくある	548	22.1%	46.9%	23.4%	5.5%	2.2%
家庭での責任からくるストレスがよくあるので、仕事に集中するのが難しいことがある	547	27.6%	51.4%	17.2%	3.3%	0.5%
家庭生活の緊張と不安のため、往々にして仕事をする能力が低下してしまう	546	33.5%	46.5%	16.8%	2.6%	0.5%
仕事の際に使う問題解決行動は、家庭での問題解決には効果的でない	545	9.7%	31.4%	48.6%	8.4%	1.8%
職場で、有効かつ必要な態度や行動は、家庭ではむしろ逆効果だろう	547	14.8%	34.4%	41.9%	7.5%	1.5%
職場では効果的な行動は、良い親や配偶者となるには役に立たない	547	18.1%	38.8%	36.7%	4.9%	1.5%
家庭ではうまくいく行動が、職場では効果的でないように思う	547	15.2%	39.5%	39.9%	4.0%	1.5%
家庭では有効かつ必要な態度や行動は、職場ではむしろ逆効果だろう	546	17.6%	39.6%	39.2%	2.6%	1.1%
家庭で、問題をうまく解決する行動は、職場では有用でないように思う	546	17.0%	41.0%	37.4%	3.3%	1.3%

WFCS の得点分布

6つの下位尺度に関して、時間に基づく仕事から家庭への葛藤の得点は平均 3.4 点、標準偏差 0.9 点、時間に基づく家庭から仕事への葛藤の得点は平均 2.4 点、標準偏差 0.8 点、ストレス反応に基づく仕事から家庭への葛藤の得点は平均 3.0 点、標準偏差 1.0 点、ストレス反応に基づく家庭から仕事への葛藤の得点は平均 2.0 点、標準偏差 0.8 点、行動に基づく仕事から家庭への葛藤の得点は平均 2.5 点、標準偏差 0.7 点、行動に基づく家庭から仕事への葛藤の得点は平均 2.3 点、標準偏差 0.8 点であった。

表 285 時間に基づく仕事から家庭への葛藤の得点分布 (n=549)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
549	3.4	0.9	1.0	3.7	5.0

表 286 時間に基づく家庭から仕事への葛藤の得点分布 (n=547)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
547	2.4	0.8	1.0	2.3	5.0

表 287 ストレス反応に基づく仕事から家庭への葛藤の得点分布 (n=544)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
544	3.0	1.0	1.0	3.0	5.0

表 288 ストレス反応に基づく家庭から仕事への葛藤の得点分布 (n=545)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
545	2.0	0.8	1.0	2.0	5.0

表 289 行動に基づく仕事から家庭への葛藤の得点分布 (n=545)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
545	2.5	0.7	1.0	2.3	5.0

表 290 行動に基づく家庭から仕事への葛藤の得点分布 (n=545)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
545	2.3	0.8	1.0	2.3	5.0

2つの下位尺度に関して、仕事から家庭への葛藤の得点は平均 3.0 点、標準偏差 0.7 点であった。家庭から仕事への葛藤の得点は平均 2.3 点、標準偏差 0.6 点であった。

表 291 仕事から家庭への葛藤の得点分布 (n=541)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
541	3.0	0.7	1.0	3.0	5.0

表 292 家庭から仕事への葛藤の得点分布 (n=541)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
541	2.3	0.6	1.0	2.2	5.0

総得点でみると、ワーク・ファミリー・コンフリクト得点は平均 2.6 点、標準偏差 0.6 点であった。

表 293 WFCS 総得点の分布 (n=536)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
536	2.6	0.6	1.0	2.6	5.0

3-10. 蓄積疲労度：CFSI-18 への回答

CFSI-18 の各項目で最も該当が多かったのは、「よく肩がこる」で 335 名（59.5%）であった。

表 294 CFSI-18 の回答 (n=563)

	度数	割合
このごろ全身がだるい	143	25.4%
腰が重い	219	38.9%
目が疲れる	286	50.8%
よく肩がこる	335	59.5%
胃腸の調子がわるい	75	13.3%
しばしば目まいがする	57	10.1%
このところ頭が重い	86	15.3%
風邪をひきやすい	46	8.2%
疲れやすい	263	46.7%
このところ寝つきがよくない	59	10.5%
根気が続かない	79	14.0%
自分の好きなことでもやる気がしない	94	16.7%
頭がさえない	80	14.2%
イライラすることが多い	114	20.2%
ささいなことが気になる	77	19.4%
心配ごとが多い	109	11.4%
気が散ることが多い	64	8.2%
生活にはりあいを感じない	46	8.2%

CFSI-18 の得点分布をみると、平均 4.0 点、標準偏差 3.2 点、中央値 3 点であった。

表 295 CFSI-18 の得点分布 (n=563)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
563	4.0	3.2	0	3	18

結果 4. 患者の回答

4-1. 回答者の属性

性別

男性が 44.5%、女性が 55.5%であった。

表 296 回答者の性別 (n=530)

	度数	割合
男性	236	44.5%
女性	294	55.5%

年齢

平均 78.0 歳、標準偏差 15.3 歳、中央値 81 歳であった。

表 297 回答者の年齢 (n=526)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
526	78.0	15.3	12	81	105

表 298 回答者の年齢階級別分布 (n=526)

	度数	割合		度数	割合
10 歳～14 歳	1	0.2%	65 歳～69 歳	33	6.3%
15 歳～19 歳	2	0.4%	70 歳～74 歳	55	10.5%
20 歳～24 歳	1	0.2%	75 歳～79 歳	72	13.7%
25 歳～29 歳	4	0.8%	80 歳～84 歳	84	16.0%
30 歳～34 歳	4	0.8%	85 歳～89 歳	84	16.0%
35 歳～39 歳	5	1.0%	90 歳～94 歳	86	16.3%
40 歳～44 歳	7	1.3%	95 歳～99 歳	30	5.7%
45 歳～49 歳	9	1.7%	100 歳～104 歳	5	1.0%
50 歳～54 歳	12	2.3%	105 歳～	1	0.2%
55 歳～59 歳	11	2.1%			
60 歳～64 歳	20	3.8%			

世帯構成

「配偶者（パートナー）と二人世帯」が最も多く、30.5%を占めていた。

表 299 世帯構成 (n=525)

	度数	割合
配偶者（パートナー）と二人世帯	160	30.5%
一人暮らし	79	15.0%
未婚の子供と同居	98	18.7%
既婚の子供世帯と同居	116	22.1%
その他	72	13.7%

患者の主たる疾患名

悪性腫瘍が最も多く、96名（20.0%）であった。

表 300 自身の主たる疾患名 (n=480)

	度数	割合
悪性腫瘍	96	20.0%
認知症	52	10.8%
脳血管疾患	73	15.2%
心不全	38	7.9%
難病	51	10.6%
その他	170	35.4%

要介護度

要介護度 5 の方が最も多く、197 名（38.4%）であった。

表 301 要介護度 (n=513)

	度数	割合
なし	49	9.6%
要支援 1	5	1.0%
要支援 2	22	4.3%
要介護 1	39	7.6%
要介護 2	54	10.5%
要介護 3	51	9.9%
要介護 4	96	18.7%
要介護 5	197	38.4%

訪問診療・看護開始年

2014 年が最も多く、44.1%を占めていた。

表 302 訪問診療・看護開始年 (n=485)

	度数	割合		度数	割合
1993	1	0.2%	2006	8	1.6%
1994	1	0.2%	2007	6	1.2%
1995	1	0.2%	2008	18	3.7%
1997	4	0.8%	2009	19	3.9%
1998	1	0.2%	2010	20	4.1%
1999	5	1.0%	2011	26	5.4%
2000	5	1.0%	2012	56	11.5%
2001	5	1.0%	2013	71	14.6%
2002	6	1.2%	2014	214	44.1%
2003	3	0.6%	2015	9	1.9%
2004	3	0.6%			
2005	3	0.6%			

4-2. 臨時対応事例の情報

臨時対応日時

臨時対応が行われた日時を曜日で見ると、日曜日が最も多く、21.3%を占めていた。時間帯で見ると、18時台、19時台、20時台が8%前後と多くなっていた。

表 303 臨時対応日時 (n=475)

	月	火	水	木	金	土	日	計	割合
24時～	2	2	1	2	3	1	6	17	3.6%
1時～	1	1	1	0	1	2	0	6	1.3%
2時～	0	0	0	5	1	3	1	10	2.1%
3時～	2	1	1	1	2	1	1	9	1.9%
4時～	0	0	2	1	1	1	0	5	1.1%
5時～	0	0	1	0	2	0	0	3	0.6%
6時～	3	1	2	1	2	5	1	15	3.2%
7時～	0	0	1	4	4	1	2	12	2.5%
8時～	3	3	0	2	2	5	7	22	4.6%
9時～	1	3	2	1	2	2	11	22	4.6%
10時～	3	4	2	4	1	5	13	32	6.7%
11時～	2	3	2	3	0	5	3	18	3.8%
12時～	0	3	1	3	2	3	3	15	3.2%
13時～	1	1	0	0	3	3	2	10	2.1%
14時～	4	3	2	2	1	5	10	27	5.7%
15時～	0	1	0	2	1	6	3	13	2.7%
16時～	5	0	2	1	2	7	5	22	4.6%
17時～	1	2	3	1	1	5	4	17	3.6%
18時～	6	6	4	0	10	5	9	40	8.4%
19時～	3	4	4	4	5	11	6	37	7.8%
20時～	10	3	3	8	6	3	8	41	8.6%
21時～	7	3	4	2	4	5	2	27	5.7%
22時～	3	4	5	6	4	4	2	28	5.9%
23時～	2	6	6	6	3	2	2	27	5.7%
計	59	54	49	59	63	90	101	475	
割合	12.4%	11.4%	10.3%	12.4%	13.3%	18.9%	21.3%		

臨時対応が発生した理由

「体の調子が急に悪くなったから」という回答が最も多く、69.0%が該当した。「ご家族が不安に思ったから」という回答は「自身が不安に思ったから」よりも多く、24.6%が該当していた。

表 304 臨時対応が発生した理由 (n=496)

	度数	割合
体の調子が急に悪くなったから	342	69.0%
思いもしなかったケガや不具合が生じたから	58	11.7%
あなたが不安に思ったから	87	17.5%
ご家族が不安に思ったから	122	24.6%
その他	37	7.5%

臨時対応時の連絡に使用した手段

電話が94.8%と大半を占めていた。

表 305 臨時対応時の連絡に使用した手段 (n=481)

	度数	割合
電話	456	94.8%
電子メール (携帯)	10	2.1%
電子メール (パソコン)	1	0.2%
その他	14	2.9%

臨時対応の連絡者

同居の家族が最も多く、72.9%を占めていた。

表 306 臨時対応時の連絡者 (n=483)

	度数	割合
ご本人	69	14.3%
同居のご家族	352	72.9%
別居のご家族	27	5.6%
ご近所の方	1	0.2%
その他	34	7.0%

臨時対応時の連絡相手

「いつも診てもらっている医師」が 107 名 (22.5%)、「訪問看護ステーションの看護師」が 324 名 (68.2%) であった。

表 307 臨時対応時の連絡相手 (n=475)

	度数	割合
いつも診てもらっている医師	107	22.5%
いつもとは別の医師	1	0.2%
診療所の看護師	25	5.3%
訪問看護ステーションの看護師	324	68.2%
事務職員	5	1.1%
ケアマネジャー	1	0.2%
救急隊員	3	0.6%
その他	9	1.9%

連絡したときの医師・看護師の対応

「すぐに看護師が訪問」が最も多く、287 名 (58.7%) を占めていた。

表 308 連絡したときの医師・看護師の対応 (n=489)

	度数	割合
電話で話して終了	36	7.4%
すぐに医師が訪問	93	19.0%
すぐに看護師が訪問	287	58.7%
待たされたが朝より前に医師が訪問	3	0.6%
待たされたが朝より前に看護師が訪問	9	1.8%
朝まで待って医師が訪問	11	2.2%
朝まで待って看護師が訪問	8	1.6%
訪問せずに病院への救急搬送を指示	17	3.5%
その他	25	5.1%

臨時対応後の転帰

「在宅療養継続」が最も多く、339名（70.8%）を占めていた。

表 309 臨時対応後の転帰（n=479）

	度数	割合
在宅療養継続	339	70.8%
救急搬送後、外来受診にて帰宅	20	4.2%
救急搬送後、入院	76	15.9%
施設入所	0	0.0%
その他	44	9.2%

選択された事例における連絡時の迷い

「全然迷わなかった」という回答が40.6%を占める一方、「少し迷った」、「とても迷った」という回答も37.7%を占めていた。

表 310 選択された事例における連絡時の迷い（n=475）

	度数	割合
全然迷わなかった	193	40.6%
ほとんど迷わなかった	103	21.7%
少し迷った	159	33.5%
とても迷った	20	4.2%

選択された事例における迷った時間

0分、5分未満という回答が60.6%を占めていたが、60分以上迷った方も4.3%存在した。

表 311 選択された事例における迷った時間（n=464）

	度数	割合
0分	140	30.2%
5分未満	141	30.4%
15分未満	80	17.2%
30分未満	64	13.8%
45分未満	3	0.6%
60分未満	16	3.4%
120分未満	9	1.9%
120分以上	11	2.4%

選択された事例における対応への評価

選択された事例における対応への安心度を尋ねたところ、「とても安心できた」または「まあ安心できた」という方が 85.6%を占めていた。

表 312 選択された事例における対応への安心度 (n=480)

	度数	割合
全然安心できなかった	6	1.3%
あまり安心できなかった	6	1.3%
どちらでもない	9	1.9%
まあ安心できた	142	29.6%
とても安心できた	317	66.0%

選択された事例における対応への満足度を尋ねたところ、「とても満足できた」または「まあ満足できた」が 94.9%を占めていた。

表 313 選択された事例における対応への満足度 (n=478)

	度数	割合
全然満足できなかった	8	1.7%
あまり満足できなかった	6	1.3%
どちらでもない	10	2.1%
まあ満足できた	157	32.8%
とても満足できた	297	62.1%